

「高齢者やプレ高齢者の ライフスタイル」調査

(社)住宅生産団体連合会

東京ガス(株)都市生活研究所

調査概要

< 調査目的 >

「住宅すごろく」のあがりである、戸建持家を既に取得している、高齢者・プレ高齢者(50代以上)が考える「高齢期の住生活」について、ライフスタイルおよび移り住みニーズの観点から探る。

< 調査方法 >

グループインタビューおよびヒアリング調査

調査時期 : 2003年6～7月

調査対象 : 首都圏在住・持家者 27名

アンケート調査

調査時期 : 2003年8月

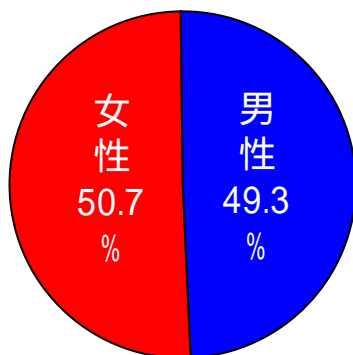
調査方法 : 郵送による質問紙留置法

調査対象 : 首都圏在住・戸建持家者

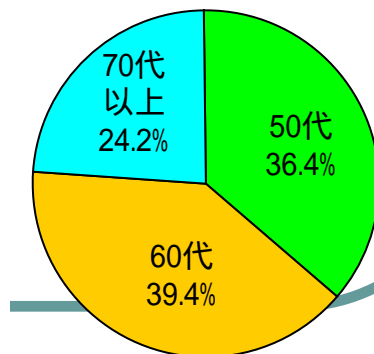
有効回答数 : 1261件(回収率63.5%)

< 回答者の属性 >

性別



年代

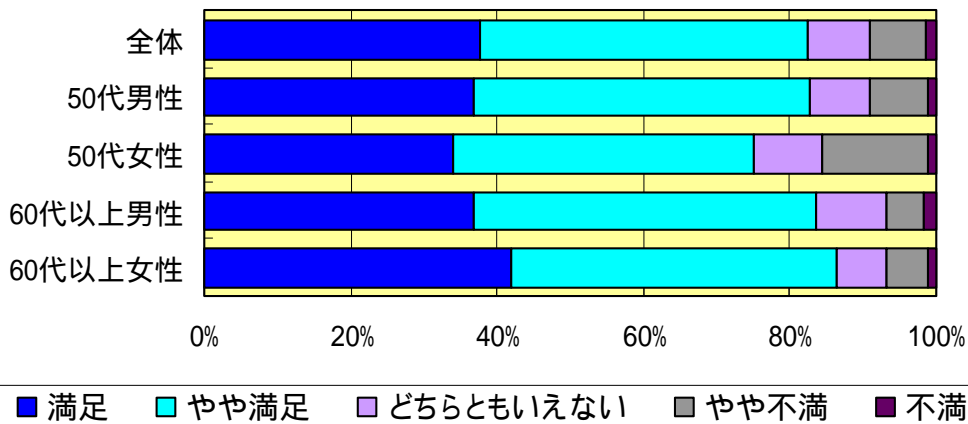


現住居への永住 についての予測

「現在の住居に今後もずっと住み続けるか」
について、予測してもらうことにより、
顕在化している移り住みのニーズを探る。

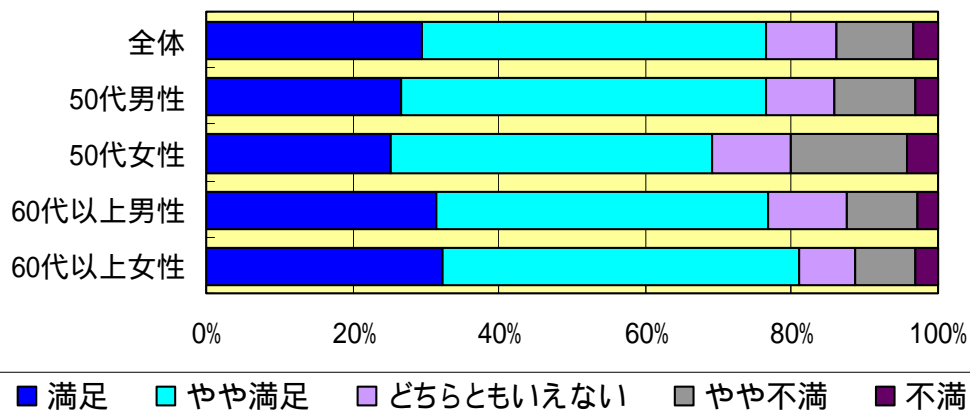
現状に対する満足度

場所・環境に対する満足度



5人に4人が住環境に対して満足している

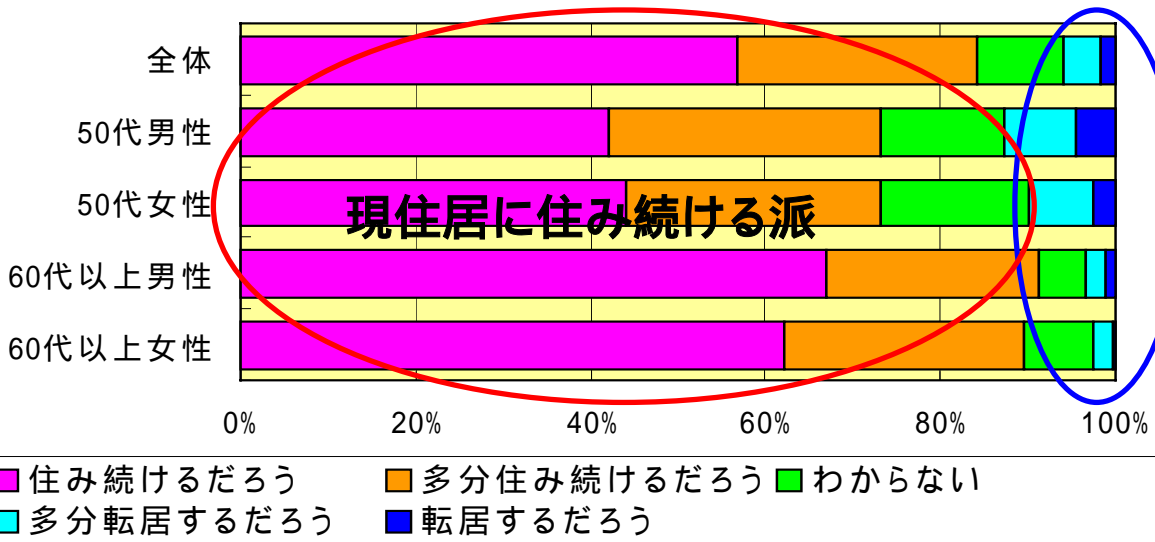
住宅に対する満足度



4人に3人が住宅に対して満足している

現住居への永住についての予測

現住居への永住予測



現住居から転居派

現住居から転居すると予測した人は、わずか5.9%
顕在化している、移り住みニーズは少ない

現在の住環境・住居への満足度は高く、
今後も現住居に住みつづけると
予測する人が大半

顕在化している「移り住み」ニーズは
ほとんどない

高齡期の 生活ニーズと不安

本当に移り住みのニーズはないのか？
移り住みニーズの裏側にある、

高齡期の生活ニーズと不安の観点から
探る。

高齢期のライフスタイル

高齢期の生活で重視すること (5件法で、「非常にあてはまる」「ややあてはまる」と回答した人の割合)

健康・くつろぎ

家族

趣味・スポーツ

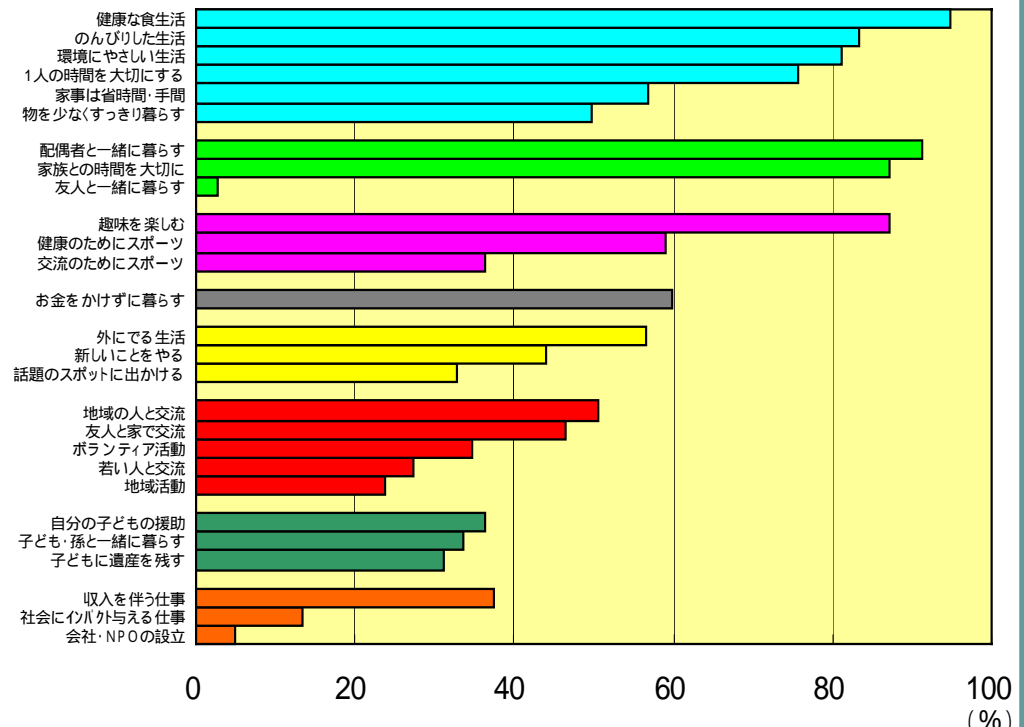
節約

外出

交流

子ども

仕事



1位 健康な食生活を心がける

2位 ご主人や奥様と一緒に暮らす

3位 家族との時間を大切にする

3位 趣味を楽しむ

高齢期のライフスタイルにおけるキーワードは
健康・家族・楽しみ・経済

高齢期の理想の住環境

重視項目 (5件法で、「非常に重視する」「やや重視する」と回答した人の割合)

1位 治安がよい 94.4%

2位 食料品・日用品の店が近い 93.8%

3位 駅まで歩ける距離 87.9%

4位 総合病院が近い 5位 内科など医院が近い

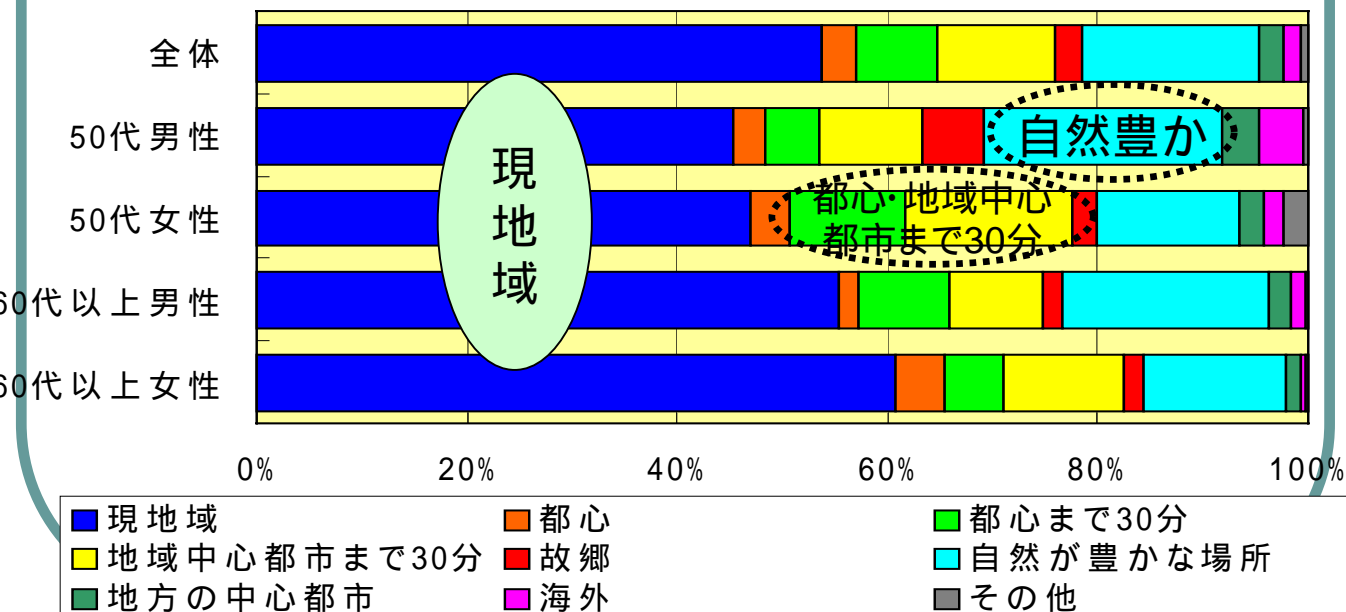
6位 街に緑が多い 7位 介護行政サービスが充実

8位 気候が温暖 9位 物価が安い

10位 街に坂や段差が少ない

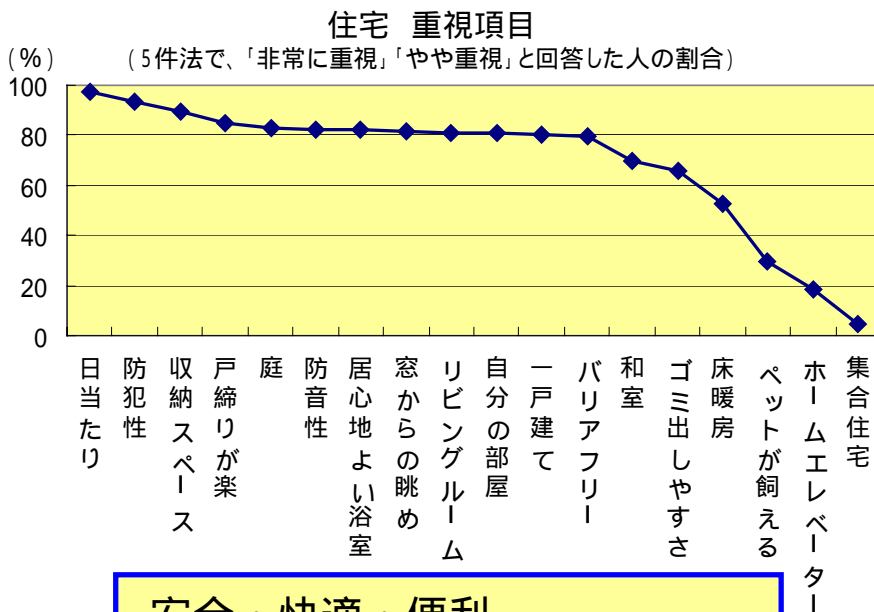
治安は基本、利便性も重要

今後、住みたい場所



男性は自然豊かな場所、女性は利便性の高い場所を希望

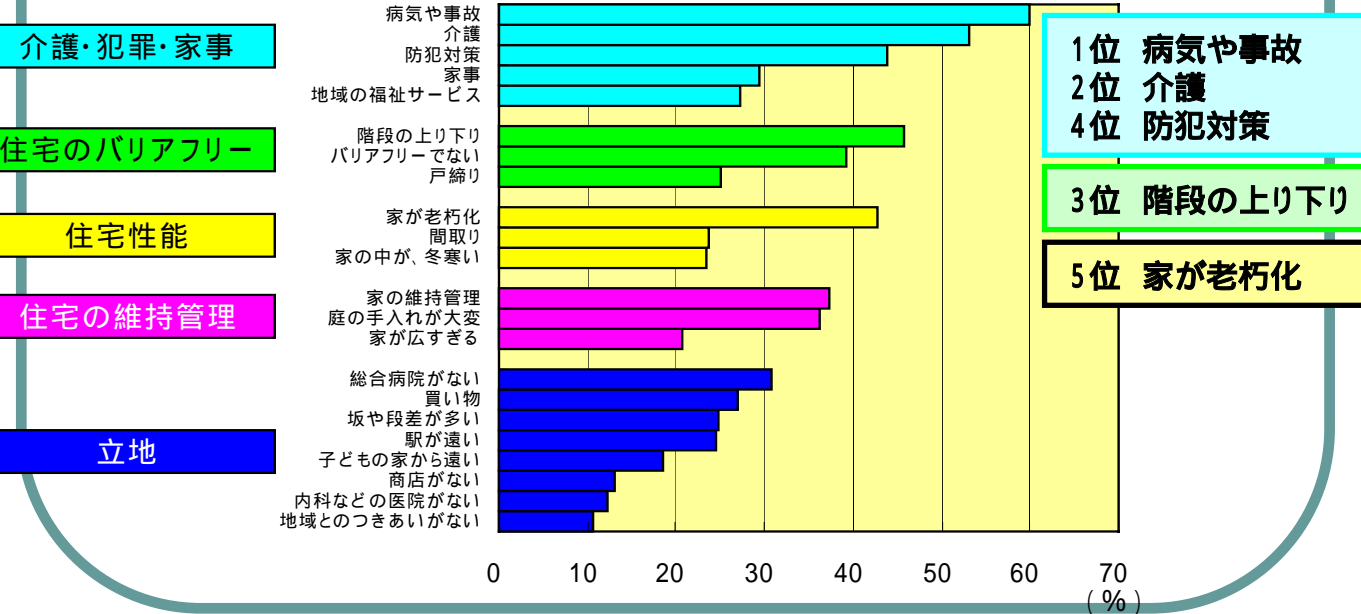
高齢期の理想の住宅と 現住居に住み続ける場合の不安



安全・快適・便利

現住居に住み続ける場合の問題

(5件法で、「非常に感じる」「やや感じる」と回答した人の割合)



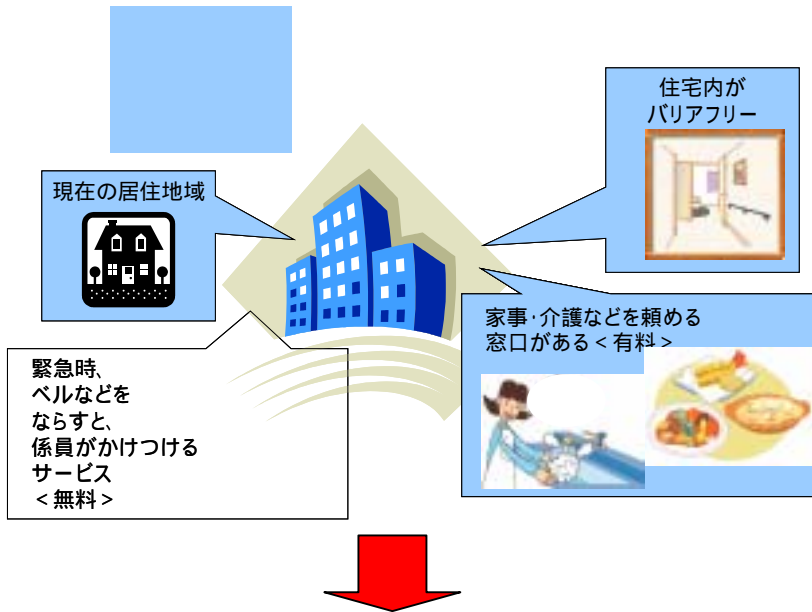
階段や家の老朽化など、住宅にまつわる不安も多い。

第3の選択肢 「駅勢圏マンション」への 転居意向

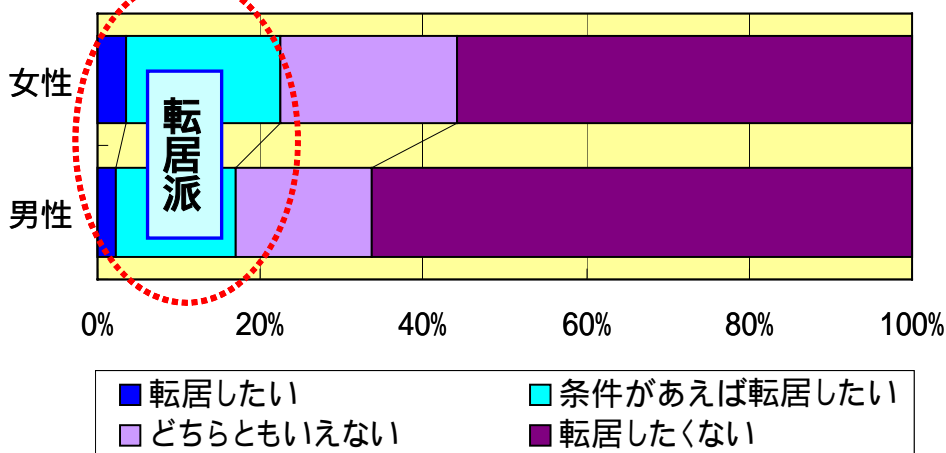
高齢期の生活ニーズや不安に応え、
定住でも施設入居でもなく、
田舎や都心への転居でもない
「第3の選択肢」を提示することにより、
潜在的な移り住みニーズを探る

駅勢圏マンションへの 転居意向

本調査における、「駅勢圏マンション」の定義

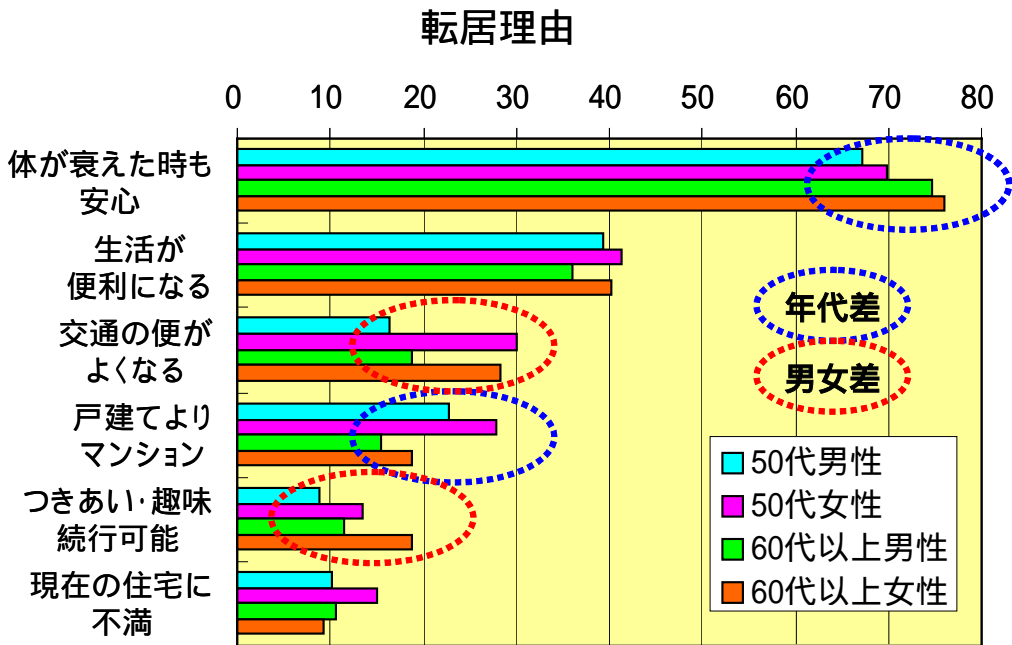


駅勢圏マンションへの転居意向

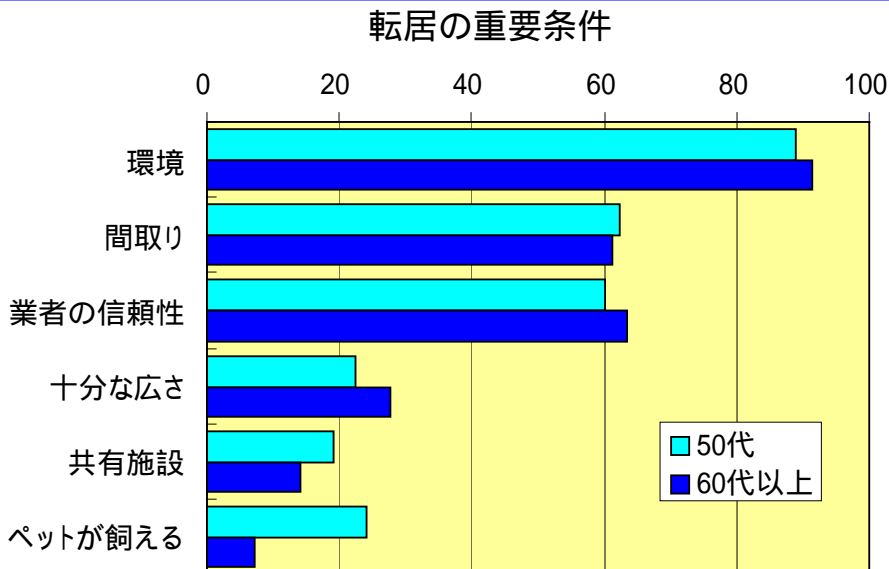


2割が転居を希望している

駅勢圏マンションへの転居希望者 転居理由・条件



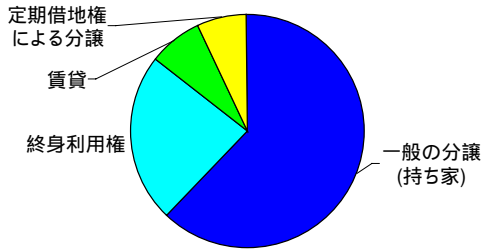
駅勢圏マンションへの転居理由は、介護対応と利便性



転居にあたり、日当たりなどの住環境はもっとも重要な条件。
50代ではペットが飼えることも大切。

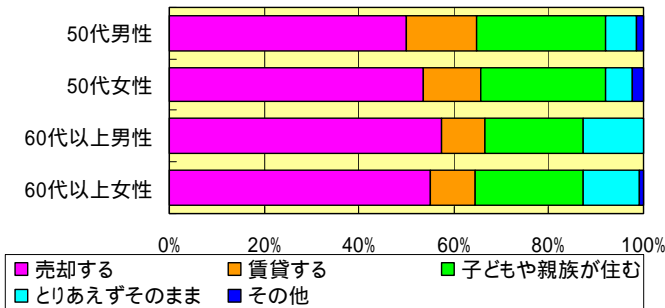
駅勢圏マンションへの転居希望者 所有形態・転居の障害

望ましい転居先の所有形態



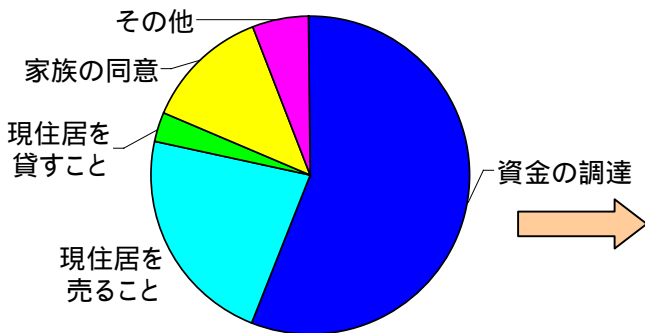
一般分譲を希望する人が
半数以上

現在の住居をどうするか

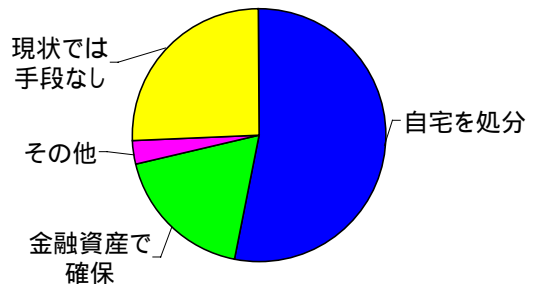


現住居は
半数が売却

転居の障害



転居時の資金の確保方法



転居にあたっての最大の障害は資金調達。
資金調達は自宅を処分する人が半数